

## ブンタンとポンカンの台木調査

浅田謙介・奥代直巳・松本亮司・山本雅史(果樹試験場口之津支場)

Kensuke ASADA, Naomi OKUDAI, Ryoji MATSUMOTO and Masashi YAMAMOTO :  
Research on the Rootstocks of Pummelo and Ponkan

麻豆文旦に平戸文旦を交配して育成した、はやさきと口之津2号及び平戸文旦の台木適応性を知るため、ヤマミカン台とカラタチ台の比較を行ってきた。また、ポンカン(中野3号)の台木適応性を知るため、カラタチ台とカラタチ台にシクワシャーを根接ぎした樹の比較を行ってきた。これらがそれぞれ11年生と20年生に達したので樹体調査、地上部、地下部の解体調査を行い、継続して実施してきた果実調査と合せてとりまとめたのでその概要を報告する。

## 1. 材料及び方法

ブンタン(はやさき、口之津2号、平戸文旦)は1975年にヤマミカン及びカラタチに接木し、3年間鉢で育苗後、1978年に圃場に定植した。ポンカンは1966年にカラタチに接木し、1年間鉢で育苗後、1967年に圃場に定植したカラタチ台樹と1969年にカラタチ台樹にシクワシャーを根接ぎした樹を供試した。樹体調査、解体調査はブンタンは口之津2号と平戸文旦を供試し、各台木1樹であった。ポンカンも各台木1樹であった。樹体調査、地上部解体調査は1986年11月、地下部解体調査は1986年11月から1987年3月に行った。掘取りの深さは、地表より20cmごとに根群が分布する深さまで行った。掘上げ幅は、スピードスプレーヤーの道路側は根群が分布する位置まで、樹間は樹間の中間である主幹より1.2mの位置であった。地上部解体調査は生体重、地下部解体調査は乾燥重で示した。果実調査は各時期ともブンタンは1樹5個を用い2樹の平均で示した。ポンカンは1樹10個を用いた。

## 2. 結果及び考察

口之津2号 ヤマミカン台はカラタチ台に比べて樹容

積は4.7倍大きく、枝重、葉重、葉数は4~7倍多かった。地下部はヤマミカン台は100cm以下まで分布し、最深は135cmであった。カラタチ台の最深は60cmであった。総根重はヤマミカン台41.2kg、カラタチ台5.6kgであった。1果平均重はヤマミカン台900g、カラタチ700g前後であった。果形指数はほとんど差はなく、果肉歩合はカラタチ台がやや低かった。果実品質はカラタチ台はヤマミカン台に比べて糖度計示度は3~4、クエン酸含量は0.1~0.2高かった。果実調査結果ははやさき、平戸文旦も同様な傾向であった。

ポンカン シクワシャー根接ぎはカラタチ台に比べて樹容積はやや大きく、枝重、葉重、葉数はやや多かった。地下部は、シクワシャー根接ぎは深さ100cm以下まで分布し、最深は120cmであった。カラタチ台の最深は70cmであった。総根重はシクワシャー根接ぎ12.1kg、カラタチ台5.9kgであった。1果平均重、果形指数、果肉歩合にはほとんど差はなかった。果実品質はシクワシャー根接ぎに比べてカラタチ台は糖度計示度は1.0~1.5、クエン酸含量は0.2~0.4%高かった。果皮色はカラタチ台が高い傾向にあった。

以上の結果、ブンタン(はやさき、口之津2号、平戸文旦)の台木としては、カラタチがヤマミカンよりも樹はかなり小さく、果実は小形であるが品質が良好なことから適していると考えられる。また、ポンカン(中野3号)の台木としては、カラタチがカラタチにシクワシャーの根接ぎよりも、樹はやや小さいが品質が良好なことから適していると考えられる。

第1表 台木の違いがブンタン(口之津2号)の果実特性に及ぼす影響

台木 品 種	調査 年	1果平 均 重	果形 指 数	果肉 歩 合	糖度計 示 度	クエン 酸 含 量
ヤマミカン	1983	895	119	58.5	9.5	1.01
	1984	948	104	60.1	10.5	1.03
	1985	916	107	59.5	9.3	0.92
カラタチ	1983	618	119	57.6	14.0	1.25
	1984	746	100	57.3	14.5	1.31
	1985	681	109	57.0	11.8	0.99

注) 1983年12月21日, 1984年12月20日, 1985年12月25日調査

第2表 台木の違いがポンカン(中野3号)の果実特性に及ぼす影響

台木 品 種	調査 年	1果平 均 重	果形 指 数	果肉 歩 合	糖度計 示 度	クエン 酸 含 量
シクワシ ャー根接ぎ	1984	154	120	61.6	12.6	0.71
	1985	132	113	70.3	12.2	0.60
	1986	142	112	70.0	11.5	0.84
カラタチ	1984	172	108	66.4	13.6	1.01
	1985	137	116	70.7	13.8	1.03
	1986	166	115	74.3	13.0	0.94

注) 1984年1月30日, 1985年1月9日, 1986年1月21日調査